



# 次世代に向けた高性能ラスモルタルの新工法 —M邸新築工事—

木構造建築研究所 田原 代表 田原 賢

▲高性能ラスモルタル仕様で完成したM邸

## はじめに

高性能ラスモルタル外壁仕様の「M邸新築工事」がこのほど正式に竣工された。この木造住宅は1995年1月17日に発生した「阪神淡路大震災」において震度6強を被災した地域で、大きな被害を受けた地域ではあるものの施主が耐震性を確保した木造住宅を建てたいという願いから、(株)ヴォーリズ建築事務所が建築設計を行い、構造設計者として木構造建築研究所 田原が参画した。

この木造住宅は、ラスモルタル外壁仕様による在来軸組み工法で施工されたが、こういった閑静な高級住宅地でも被災した木造住宅の多くがサイディング等のラスモルタル外壁の住宅に建て替えられている。それでも今回の施工に関しては「施主の希望であるヴォーリズ建築の素晴らしい外観フォルムの家」と「ラスモルタル外壁」という希望を受けて高性能ラスモルタル外壁仕様を提案し、採用されたものである。

## 施工のポイント

工事期間中には新型コロナウイルス感染拡大、2021年春



▲まるで南欧風の豪邸を思わせるM邸

からの「ウッドショック」による木材価格高騰など工程通りに進捗しない状況が続いた。それでも何とか困難を乗り越え竣工するに至った。

今回、導入された新しい高性能ラスモルタル外壁仕様では、ラス網の力骨の線径を1.6φ以上、可能ならば2.0φが出来ないか？ということで(株)日総に新たに開発して頂いたXラスを採用し、今回の現場が最初の施工となった。また、土台からの軸要素となる躯体の構造上の肝となる柱、間柱、胴差、桁といったフレーム部にダイレクトにラスを